



さいま あかね
財満 茜

高千帆中学校 2年

「なんとかなる！」
ということ学びました

あの場所へもう一度・・・

オーストラリアへ行って、私自身とても変わったと思います。初めは慣れなくてとても苦労しましたが、ホームステイ先の人がとても親切にしてくれたので毎日が楽しかったです。

オーストラリアで学んだ事は「なんとかなる！」と言う事です。分からなくても、ジェスチャーなどで通せばいつもなんとかなっていました。また、英語が通じたときはとてもうれしかったです。まだまだ未熟な私が、知らない所に飛びこんでいて、これも良い経験だったと思います。向こうの文化を学べた事などすべてに感謝をしたいです。

また、今回は自分が責任を持ってしなければならない事があったので、とても勉強になったと思います。2週間でもやっぱり「まだ短かったなあ」と感じた部分もたくさんあったので、もう1度チャンスがあれば行ってみたいです。また日本でも外国の人との交流があったらいいなあと思いました。そして、この企画はこれからもずっと続けていってほしいです。今回、私がこんなすばらしい経験をすることが出来たのも、たくさんの方の支えがあったからこそだと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。

本当にありがとうございました!!!



つほかわ ことみ
坪河 琴海

宇部フロンティア大学
附属中学校 2年

「心から理解しようとすれば
心からつながる」

海外派遣を振り返って

オーストラリア。私にとって大きい存在となりました。「行ったから」「大きいから」だけではありません。言葉では言い表せない、行った人にしか分からないものがあると思います。

初めての海外でした。苦労することもあったけど、やること、見ること、1つ1つが思い出として心に残っています。

その中で、1番印象に残っているのがホームステイです。実は英語が苦手です。そのため、1日中すべて英語で生活することが1番不安で、自信がありませんでした。実際、やはりしゃべるのが早く聞きとれない、話しても意味が通じてない。しかし、落ち込んでる私をいつも元気にしてくれたのはパディ(※)をはじめとするホストファミリーのみなさんです。明るくておもしろい家族が大好きでした。本当の家族のようでした。特にパディのジュリアス・リーニーは学校や海、どこに行っても気にかけてくれ、昔からの友達、いや本当に仲の良い兄妹に感じました。

私はホストファミリーに「言葉・外見は違うけど、相手を心から理解しようとすれば、心からつながる」と、言葉ではないけど教えてもらった気がします。

※パディ・・・ペアになって学校内で行動し、学校生活をサポートしてくれる生徒

今年で17回目の開催となった「中学生海外派遣事業」。中学生6人と随行職員の計7人が、姉妹都市であるオーストラリアのモートンベイ市(旧レッドクリフ市)で、7月31日～8月14日まで“ホームステイ”を体験しました。

言葉も生活習慣も、何もかもが日本とは異なる

国での15日間。初めは緊張している様子の中学生たちでしたが、ホストファミリーやモートンベイ市の学生など、“新しい友達”ともすぐにうち解け、素敵な夏の思い出を胸いっぱい抱いての帰国となりました。

●担当課 市民活動推進課 (☎ 82-1134)